

共通する根本原因と再発防止対策

「誤信号による非常用炉心冷却系の作動」、「残留熱除去系（Ｂ）系統圧力の上昇」および「原子炉起動中の操作していない制御棒の挿入」の３件の事象について、それぞれの事象毎に見出された問題点を分類し、共通する４つの根本原因を抽出するとともに、それに対する再発防止対策を策定しました。

共通する根本原因	再発防止対策
１．計画外作業に対する計画・承認プロセスが不十分 不適合が発生した場合など、通常と異なる計画外作業に対し、作業体制、系統の安全処置などに関する作業計画の立案から承認に至るまでの一連のプロセスが不十分であった。	（１）計画外作業に対する計画・承認プロセスの明確化 計画外作業が発生した場合においても、作業計画の立案から承認に至るまでの一連のプロセスが確実に実施されるよう現行の要領書などを見直す。
２．当直のバリア機能に関するプロセスが不十分 計画外作業時における想定外の警報が発生した場合の対応、および定期検査中のプラント状況に応じた制御盤面のきめ細やかな監視などプラントの状況を適切に管理するための当直のバリア機能の一部が不十分であった。	（２）当直のバリア機能に関するプロセスの明確化 計画外作業において、想定外の警報が発生した場合は、当直が作業中断などの指示を行うこと、また、当直は、定期検査中のプラントの状況に応じた制御盤面のきめ細やかな監視を行うことなどについて、現行の要領書などに明確化を行う。
３．保修作業票の管理プロセスが不十分 計画外作業が発生した場合の保修作業の実施にあたり、作業管理のための保修作業票を新たに発行せず、既存の保修作業票を活用していたため、関係者内における作業管理が不十分であった。	（３）保修作業票の管理プロセスの明確化 計画外作業が発生した場合の保修作業の実施にあたり、保修作業票を用いた作業管理を強化するため、計画外作業が発生した場合のプロセスについて、現行の要領書などに明確化を行う。
４．コミュニケーションが不十分 計画外作業において、重要な情報が関係者相互に伝達されることなく、作業が行われるなど、発電所内のコミュニケーションが不足していた。	（４）コミュニケーションの充実 計画外作業だけでなく、保安活動を行うのに重要な情報を関係者が相互に共有することの重要性について、安全文化醸成活動の中で継続的に意識付けを行う。